

（毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行）

縣報 第六百八十三號

明治四十年七月十五日 和歌山縣

○公文

○和歌山縣令第三十八號

渡航ニ關スル規則左ノ通相定ム

明治四十年七月十一日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

渡航ニ關スル規則

第一章 渡航者

第一條 法令ノ規定ニ依リ外國へ渡航セントスル者ハ其目的ニ從ヒ附錄第一號第二號書式ニ依リ

願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ニ差出ヘシ

一 戶籍謄本

二 兵役ニ關スル証明書

三 保証人ヲ立ツル場合ニ於テハ保証人ノ納稅額ニ關スル証明書

四 在外者ノ呼寄ニ依リ渡航セントスル者ハ其ノ在留者ノ職業及在留証明書並呼寄書（封筒）又

ハ呼寄ニ關スル領事ノ証明書

五 移民以外ノ渡航者ニアリテハ本人又ハ出資者ノ地租、所得稅、營業其他ノ納稅額ニ關スル

証明書

移民取扱人ニ依ル契約移民ハ前項ノ外向契約書寫一通ヲ添付スヘシ

縣報第六百八十三號

明治四拾年七月十五日

第三種郵便物認可

第二條 家族又ハ未成年者ノ願書ニハ戶主又ハ後見人連署スヘシ

第三條 婦女子ニシテ父母若クハ夫ニ從ヒ又ハ在外者ノ呼寄ニ依リ渡航セシトスル者ハ各寫眞

(父母夫妻等同)ヲ携帶スヘシ
(行者ハ合寫)

第四條 渡航ノ許可ヲ受ケタル後六ヶ月以内ニ出發セサルトキ若ハ歸國シタルトキハ第一條ニ準シ速ニ許可証ヲ返納スヘシ

第二章 保証人

第五條 移民保護法施行規則第三條ニ依リ外務大臣指定ノ地ニ渡航スル移民ノ保証人ハ二人トス

第六條 移民ニアラサル者ノ保証人ハ一人トス但シ時宜ニ依リ保証人ヲ免除スルコトアルヘシ
清韓國國へ渡航スル者及露領沿海州及薩哈噠島沿岸ニ於テ漁業ヲ行フ爲メ渡航スル者ハ保証人ヲ要セズ

第七條 前二條ノ保証人ハ願人ト同一郡市内ニ居住シ地租又ハ所得稅十円以上若ハ地租ト所得稅トヲ合シ十円以上ヲ納ムルモノナルコトヲ要ス但三十円以上ヲ納ムルモノハ三人マテノ保証人トナルコトヲ得

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ保証人トナルコトヲ得ス但シ第一號ノ者ニ在リテハ夫又ハ法定代理人又ハ補佐人ノ同意ヲ得タルトキハ此限リニアラズ

一 妻、未成年者、禁治產者、準禁治產者

二 公權剝奪若ハ停止中ノ者

三 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終

ヘサル者

四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第九條 保証書ハ附録第三號書式ニ依リ願書ニ添付スヘシ

現ニ保証人タルモ更ニ他ノ保証ヲナストキハ前ニ保証シタル渡航者ノ族籍氏名及保証年月日ヲ保証書ノ末尾ニ附記スヘシ

同時ニ二人ノ保証ヲナストキハ相互ノ保証書ニ前項ノ附記ヲナスヘシ

第三章 移民取扱人

第十條 移民取扱人又ハ代理人ニ於テ其事務員ヲ選任セントスルトキハ願書ニ左ノ事項ヲ具シ戸籍謄本ヲ添付スルヲ要ス

一 從來ノ經歷
二 執務ノ場所

第十一條 事務員選任認可証ヲ亡失シ又ハ其証記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ三日以内ニ移民取扱人又ハ代理人ヨリ當廳ニ届出再下付又ハ書換ヲ請フヘシ

第十二條 移民取扱人又ハ代理人其使用セル事務員ヲ解任シタルトキハ遲滞ナク認可証ヲ添ヘ當廳ニ届出ツヘシ

第十三條 移民保護法施行細則第二十二條ニ依リ移民募集地ニ代理人ヲ在留セシメタルトキハ直ニ在留地名並ニ在留者ノ氏名ヲ當廳ニ届出ツヘシ

第十四條 移民取扱人移民乗船ニ關スル周旋ヲ委托セントスルトキハ被委託者ト連署ノ上當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十五條 移民保護法第十三條ニ依リ移民取扱人ニ於テ移民ト書面契約ヲ爲ストキハ本紙二通ヲ添付シテ認可ヲ申請スヘシ

第四章 金錢貸付業

第十六條 移民保護法施行細則第五十一條ノ願書ニハ同條ニ規定スル事項ノ外尙左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 戶籍謄本

二 金錢貸付業ニ關スル納稅額證明書

第十七條 移民貸付金ノ帳簿ハ附錄第四號書式ニ依リ調製シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ
前項ノ帳簿ハ所轄警察官署ノ承認ヲ受クルニアラサレハ廢棄スルコトヲ得ス

第十八條 金錢貸付業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ移民ヨリ契約以外ノ金品ヲ受ケ又ハ請求スルコトヲ得ス

第十九條 金錢貸付業者其業務ニ關シ雇人ヲ使用セントスルトキハ戶籍謄本ヲ添ヘ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ認可ヲ受ケタル雇人ノ行爲本期ニ違背シ又ハ不適當ト認ムルトキハ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 本則第十八條ノ規定ハ前條ノ雇人ニモ適用ス

第五章 雜則

第二十一條 旅券及渡航許可証ハ當廳ヨリ所轄警察官署ヲ經テ本人ニ下付ス但シ本人又ハ移民取扱人(委任狀ヲ要ス)ニ於テ直ニ之ヲ受ケントスルトキハ其旨ヲ副願スヘシ

旅券ノ下附ハ第五號書式ニ依リタル領收証ト引換ニ爲スコトヲ要ス

第六章 罰則

第二十二條 本則第四條、第十一條、第十二條、第十三條、第十四條、第十七條、第十八條及第十九條第一項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

前項ノ制裁ハ家族雇人ノ所爲ト雖モ當業者ニ科ス

附則

第二十三條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年三月和歌山縣令第二十七號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式

外國旅券下附願

私儀今般某國へ渡航又ハ復往致度候ニ付左ニ目的及從來ノ經歷等具申候條外國旅券御下附相成度保証人ノ保証書相添へ連署此段奉願候也

一目 的 何々

何國何地ニ赴キ何品ヲ販賣ス（別ニ方法ヲ定メタルモノハ其方法ヲモ記入スヘシ）何國何地何學校ニ入り何學ヲ修メントス又ハ何々

何國何地某ト特約シ一ケ年（又ハ月日）大約幾許備賃ヲ受ケ或ハ自己ノ働ヲ以テ何々業ニ

従事ス

二 在留年限

三 何ヶ年間ハ何地ヘ何ヶ年ハ何ヶ國ヲ旅行ス
從來ノ經歷

第一項ノ目的ニ關係アル經歷ハ詳記スヘシ

四 資金及費用 總額幾圓

資金及費用ハ自己ノ所有金又ハ何縣何郡町村大字何々某ノ出資或ハ借入ニシテ内何圓ハ資
金トシ幾圓ヲ費用トス（修學者ニアリテハ學資金トシテ渡航後一ヶ月（一ヶ年）毎ニ何某ヨ
リ何圓ヲ送金スル旨ヲ記スヘシ）

本邦何港ヨリ何國何地マテ旅費トシテ幾圓滞在費トシテ幾圓非常豫備費トシテ幾圓ヲ充ツ
本項金額ハ自己ノ所有又ハ何某ヨリノ借入金トス

五 徵兵關係 何々

國民兵、豫備役、後備役編入等（検査不合格又ハ兵役免除若クハ猶豫セラレタルモノ等理由）
犯罪竝破産ノ明カナルモノハ之ヲ記入スヘシ

六 前科ノ有無若アルトキハ其事ノ詳細

破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ身代限りノ處分ヲ受ケタルコトノ有無
年 月 日

原籍住所身分職業

本人 氏 名 印

（本人氏名ノ右側ニ傍訓ヲ附スヘシ）

生年 月 日
滿何年何ヶ月

本縣知事宛

第二號書式

(移民ニ限リ旅券下附願書ニ本願書ヲ添付スヘシ)

外國渡航許可願

私儀何々ノ目的ヲ以テ某國へ渡航ノ爲メ外國旅券下附願差出候ニ付渡航御許可相成度候也

年月日

原籍住所身分職業

戸主又ハ家族引受人 氏 名印

原籍住所身分職業

保証人又ハ政府ニ對シ 氏 名印

保護ノ責務ニ任スル者

會社者クハ個人 印

原籍住所身分職業

本人 氏 名印

原籍住所身分職業

戸主又ハ家族引受人 氏 名印

本縣知事宛

第三號書式

保証書

一 地租

一 所得稅

今般某何々ノ爲メ何國何地へ渡航ニ付拙者前記ノ財産ヲ目的トシ保証人ニ相成申候就テハ本人
 萬一疾病其他困難ノ場合ニ於テハ御指揮ニ從ヒ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘキハ勿論官廳ニ於
 テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシメラレタルトキハ其費金ヲ辨償スヘク又拙者ニ於テ資格ヲ失ヒタル
 トキハ更ニ保証人ヲ定ムヘク尙此等ニ關シ官廳ヨリ命令セラル、トキハ其命令ニ從ヒ責務ヲ盡
 シ可申候也

追テ從來渡航者ノ保証人ニ相立チシコト無之又ハ何年何月何日何縣何郡(市)何町村何大字某
 何國何地へ渡航ノ節保証人ニ相立候

年 月 日

原籍住所身分職業

氏

名 印

本縣知事宛

第四號書式

(金錢貸付人名簿)

貸付年月日	返済年月日	利率	貸付金額	償還ノ方法其他契約條件ノ要領	貸付人原籍住所氏名	渡舟先
-------	-------	----	------	----------------	-----------	-----

第五號書式

收入印紙

外國旅券領收證

一外國旅券 第何號 壹枚

但拙者某國へ渡航ノ爲御下付ノ分

縣報第六百八十三號

明治四拾年七月十五日

第三種郵便物認可

縣報第六百八十三號

明治四拾年七月十五日

第三種郵便物認可

右正ニ領收候也

年 月 日

本縣知事宛

原籍住所

本人 氏

名 印

○和歌山縣訓令第三十六號

郡役所
市役所
町村役場

市町村有財産管理規程準則左ノ通改正候條市町村ニ於テハ此準則ニ基キ規程ヲ定メ第一次監督官
廳ノ指揮ヲ受クヘシ

明治四十年七月十一日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

市町村有財産管理規程準則

第一條 本市(町村)有財産ハ此規程ニ依リ管理スルモノトス

第二條 財産ハ左ノ區別ニ從ヒ原簿ヲ設ケ之ヲ登錄スヘシ但シ口座ヲ設ケ之ヲ合冊スルコトヲ得

一、基本財産

二、學校基本財産

三、通常財産(歳出ニ充ツル現金ヲ除ク)

第三條 穀物ハ市參事會(町村長)ニ於テ確實ト認ムル者ニ保管預ト爲シ其ノ預リ証書ヲ徵シ保管
スルモノトス

前項ニ依リ保管預ケト爲タル穀物ハ市參事會市長(町村長)ニ於テ毎年一回以上之ヲ檢閲スヘシ
舊穀ハ市町村會ノ議決ニ依リ之ヲ賣却シ現金ニ代ヘ若ハ新穀ト交換スルコトヲ得

第四條 市(町村)ノ公用ニ供スルモノ、外土地建物ハ五箇年以内穀物ハ一ケ年以内ノ期限ヲ以テ
貸與スルモノトス但シ本文ノ期限ニ依リ難キ事情アルモノハ此限リニ在ラス

營利ノ目的ニテラサレル事業ノ爲貸付スル場合ハ料金ヲ徴收セザルコトヲ得

第五條 土地、建物、其貴重品中ト雖モ必要アルトキハ市町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第六條 土地、建物又ハ穀物ヲ貸與スルトキハ市參事會市長(町村長)ハ借主ヨリ貸與期限、貸金等ノ條件債務者、債權者又ハ保証人ノ氏名ヲ記載シタル契約證書ヲ徴スヘシ

保証人ハ縣下ニ在住スル能力者ニシテ擔償ノ實力ヲ有スル者ニ限ル

第七條 現金、郵便貯金又ハ大藏省預金トシ其ノ金高參百圓以上ノモノハ國債証券若ハ勸業銀行、興業銀行及本縣農工銀行ノ株券債券又ハ永續收益ノ見込アル不動産ニ代ヘ維持スルモノトス但シ他ノ公共團體ニ利付ニテ貸付スルコトヲ得

第八條 國債証券若ハ勸業銀行、興業銀行及本縣農工銀行ノ株券債券額面千圓ヲ超ユルトキハ國債証券ニ對シテハ國債規則第三章ニ依リ登錄ヲ受ケ其ノ他ハ郵便官署ニ保管預ケテナシ又ハ縣金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行ニ保護預ケテナシ其證書ヲ徴シ保管スルモノトス

銀行ニ保護預ケテ爲シタル証券ハ市參事會市長(町村長)ニ於テ毎年之ヲ檢閲スルモノトス

第九條 第七條但書ニ依ル貸付ハ償還期限ヲ五ヶ年以内トシ年利五分以上トス但償還ノ法方確實ナリト認ムルモノ及本文ノ期限ニ依リ難キ事情アルモノハ此限ニ在ラス

貸金証書ニハ其ノ金額貸付及償還年月日利率債務者債權者ノ氏名等ヲ記載セシムヘシ

第十條 財産ノ賣却交換讓與等ノ處分ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一、負債ヲ償還スル爲又ハ天災時變等止ムヲ得サル支出若ハ市町村永久ノ利益トナルヘキ支出

ヲ要スルニ當リ住民ノ負擔ニ堪ヘサルトキ但シ基本財産ニ在リテハ相當ノ期限ヲ以テ戻入
ノ方法ヲ定ムルヲ要ス

二 管理維持上損益相償ハサルトキ

三 寄附ヲ受ケタルモノニシテ使用ノ目的消滅シタルトキ

第十一條 第四條第六條乃至第十條ニ規定シタル土地、建物、有價証券、金穀ノ賣買、交換、讓
與、又ハ預入、貸付ニ付テハ市町村會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第十二條 本規程ハ町村内ノ區及一部ノ所有スル財産ノ管理ニ付キテモ之ヲ準任ス但一區一部ノ
財産ニシテ本規程ヲ準用シ得サル事情アルモノニ限リ別ニ之ヲ設クルコトヲ得

附 則

第十三條 從來個人ニ貸付又ハ預ケ入ヲ爲シタル現金又ハ銀行該金ハ明治四十一年三月限り之ヲ

回收シ又ハ本規程外銀行會社ノ株券債券ハ便宜之ヲ賣却シ第八條ニ依リ殖利スルモノトス

個人ニ貸付又ハ預ケ入ヲ爲シタル現金ニシテ前項ノ期限ニ依リ難キ事情アルトキハ監督官廳ノ
認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

縣報第六百八十三號

明治四拾年七月十五日

第三種郵便物認可

一四

○和歌山縣告示第四百四十八號

府縣制第六拾八條第二號ニ依リ縣參事會ノ議決ヲ經タル明治四拾年度和歌山縣歲出更止豫算ノ要領左ノ如シ

明治四拾年七月十一日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

明治四十年度和歌山縣歲出豫算中更正

歲出臨時部

第十款 勸業費中第一項ノ水産試驗場費トアルヲ水産講習所費ト改ム

○和歌山縣告示第四百四十九號

東牟婁郡新宮町百十一番地

開業産婆 山本清惠

右今般東京府東京市京橋區永島町一番地先キ日比谷川岸第四號へ轉住ノ旨ヲ以テ取消願出ニ依リ本日 和歌山縣産婆名簿ノ登錄ヲ取消ス

明治四十年七月十二日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

○觀測

明治四十年七月十日ヨリ三日間當地氣象概況

月日	七月十日	七月十一日	七月十二日
種類	前年	本年	前年
	年	年	年

可認物便郵種三日八月五年三十三治明

平均氣壓	平均氣温	最高氣温	最低氣温	最多風向	平均風力	天氣	雨雪量	記事
七五五耗九	二五度〇	二九度七	二〇度七	南東	二米五	曇	〇耗〇	午前月曇ヲ映 ズ
七五六耗七	二三度六	二四度九	二一度四	南々西	四米五	雨	二三耗七	終日降雨ス 夕刻ヨリ南々 西ノ強風吹ク
七四九耗三	二三度九	二七度八	二一度五	北西	一米九	曇微雨	一耗五	午后時々微雨 夕刻内陸風雨 ノ警戒ヲ解除 ス
七五三耗六	二三度六	二四度八	二〇度〇	南々西	四米九	雨後曇	六七耗一	午前降雨ス 早朝迄強風吹 ク
七三九耗一	二六度五	三一度七	二一度九	西北西	一米六	曇微雨	〇耗〇	午前月環ヲ映 ズ 午後微雨ス
七五五耗五	二二度七	二七度八	一八度五	南西	二米〇	晴	一五耗六	黄昏降雨ス

（毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行）

和歌山市久保町一丁目一番地